

札幌市役所水元会の紹介 活動の近況と今後について

札幌市まちづくり政策局 総合交通計画部
公共交通システム担当課長
(札幌市役所水元会 幹事長) 岩瀬 範昭 (材料物性工学科 平成9年卒)

札幌市役所水元会は、会員相互の親睦を通じて市政への貢献などに寄与することを目的とした札幌市役所職員の同窓生の集まりで、過去の資料によると発足は古く、昭和49年になります。

現在の会員数は約270人で、主に技術職として札幌市役所に採用され、道路や建築の工事発注、舗装や橋梁、上下水道施設、清掃工場などの社会インフラの維持管理、地下鉄車両や路線の保全、まちづくり計画など、様々な分野で奮闘しています。

会の活動内容は、普段関わることがない部署や異職種同士、一般職から局長職まで役職の壁を超えて親睦を深める場として、年1回総会・親睦会を開催するほか、若手会員や女性会員の親睦会、ゴルフ大会なども行っています。この様なイベント等を通じて、同窓の絆を深め、人の輪が広がる様な活動をしています。

コロナ渦においては、感染症拡大防止のため活動を休止せざるを得ませんでしたが、経済的に困窮している学生が増えているとの報告を受け、後輩たちの少しでも力になればと、令和2年に大学へ寄附金を贈呈させていただきました。新型コロナウイルスが5類感染症に移行した令和5年度からは、4年ぶりに総会・懇親会の開催を再開しており、今年度(令和6年度)も多くの会員が参加し大いに盛り上がったところです。

一方、総会・懇親会以外の活動は減少してきている状況です。近年は若手職員の割合が多くなってきていることから、これまでの活動内容を見直し、多くの会員が参加する交流の場として何ができるのか、改めて検討する必要があるのかもしれない。

また、これまで会の活動に尽力されてきた諸先輩方が退職する中、運営のノウハウ継承や担い手の育成が課題となっており、会の継続に向けて様々なアイデアを模索しながら、組織の成長を図っていかねばならないところです。

50年近い歴史がある札幌市役所水元会が、今後も50年、100年と、活動を続けていくことで、同窓の交流のきっかけとなり、親睦を深める場として、末永く発展していくことを願っております。

ドーコングループ室蘭工大会のご紹介

株式会社ドーコン 都市・地域事業本部
執行役員副本部長 谷川 栄治 (建築工学科昭和59年卒)



室蘭工業大学同窓会札幌支部の設立70周年を迎えられることに対してお祝いを申し上げます。
弊社、株式会社ドーコンおよび関連会社の同窓会である「ドーコングループ室蘭工大会」を紹介します。

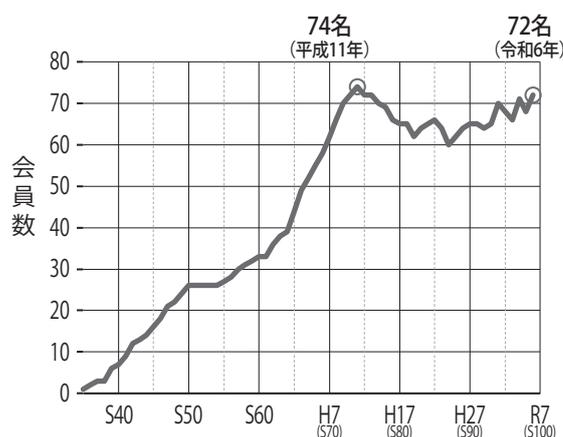
○ドーコングループ室蘭工大会について

ドーコングループ室蘭工大会(以下、工大会)の設立は今から63年前の昭和36年4月1日で、社内の記録を遡ると昭和54年からは、現在のような会員が集う行事が行われていました。何と45年間以上継続的に活動していることとなります。

また、ドーコン社員の会員数の変遷を右のグラフに示します。昭和40年代の創成期には右肩上がり
で会員が増加、オイルショックを経て昭和後半から
更なる加速期を迎えて平成11年にピークを迎えま
した。その後はいわゆる就職氷河期による会員の
減少もありながら、令和に入ってから再びピーク
に迫る勢いで会員増加が進んでいます。

令和6年4月1日現在のドーコングループ室蘭工大会の会員数は81名(ドーコン72名、関連会社9名)となっています。

工大会(ドーコン)会員数の推移



○工大会の活動について

- ・ドーコングループ室蘭工大会(総会、社内ゴルフ大会 等)
- ・室蘭工業大学同窓会札幌支部、水元技術士会、札幌室蘭工学同窓会との連携
- ・室蘭工業大学教育・研究振興会への寄付 他

○近況について

令和2年度からはコロナ禍により、社内同窓会活動も制約を受け、令和2年度は総会中止、令和3、4年度はWEBによる総会の開催、そして令和5年にようやく4年ぶりに対面で総会を開催することが出来ました。その時の写真ですが、皆さんの笑顔が溢れています。



～今後とも、ドーコングループ室蘭工大会よろしくお願ひいたします～

ゼネコンで一緒に仕事しませんか？

伊藤組土建株式会社 新沼 寛明 (土木工学科 平成5年卒)



この度は室蘭工業大学同窓会札幌支部が設立70周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。私の職場である伊藤組土建株式会社を紹介します。

当社は1893年(明治26年)に創業以来、明治から令和の5つの時代にわたり、ランドマーク的な建造物の建築や、数々の大型土木工事によるインフラ整備、自然災害の復旧工事にも尽力することで、北海道の発展に貢献し、北の大地のライフラインを支えている会社です。会社の人事台帳に掲載されている、本学を卒業し当社に入社した延べ人数は93名、令和6年4月1日現在の同窓生は36名在籍しています。

私は現在、管理職の立場ではありますが、入社後23年間はトンネルや都市土木、道路・河川工事などの現場において施工管理業務や独立行政法人への出向など様々な経験をしてきました。その中でも約12年間(6現場)にわたり、土木工事としては稀なスキージャンプ台の建設・改修に携わってきました。オリンピックやワールドカップが開催できるジャンプ台の工事はミリ単位の施工精度や特有のノウハウが必要であり、当社は日本国内でも数少ない施工ができる建設会社(ゼネコン)の一つです。

先日の新聞(業界紙)において、「大学・高校の新卒採用に関して道内ゼネコンが売り手市場の中、苦戦を強いられている」との報道がありました。しかしながら、2024年4月から「時間外労働の上限規制」が建設業にも適用されたこともあり、従来の建設業界で使われることの多かった「3K(きつい、汚い、危険)」のイメージから大きく脱却し、「新3K(給与、休暇、希望)」(最近これに「かっこいい」を加えて「新4K」とも呼ばれています)へと業界全体の変革に向けた加速化が進んでいます。

さらに日々姿かたちを変えていく工事現場で、多くの職人さん達をまとめ上げ、「ワンチーム」として時間をかけてスケールの大きなものを作り上げる過程には、ほかの仕事では味わえない喜びがあり、地図に残るような建造物を新たに創り出すことに自分の仕事が誇らしくなります。

当社は「責任観念・誠心誠意」の社是のもと、「地元・北海道に貢献したい!」という熱い思いを持つ社員が集結する技術集団です。上記のような魅力いっぱいのゼネコンで仕事のしたい方、また、当社に興味のある方のご連絡を是非お待ちしております。

「田中組水元会」 義理と人情に満ちたあふれた精鋭達

株式会社田中組 松井 智樹 (土木工学科 昭和63年卒)



我が室蘭工業大学の同窓会札幌支部が設立70周年を迎えるにあたり、心よりお祝い申し上げます。また、記念誌において当社同窓の会を紹介させて頂くことに対し、光栄であると同時に感謝申し上げる次第であります。

さて、株式会社田中組は1902年(明治35年)、当時伊藤組(現伊藤組土建株式会社)に席を置いていた田中銀次郎氏が旭川市にて創業し、今年で122年を迎えております。

この間に室蘭工業大学出身の社員は数知れず在籍していたにも関わらず、辛うじて非公式な同窓数名での集まりが昭和末期頃、年1回程のペースで開催されただけでした。

その後、田中組5代目社長に就任した竹中勝好氏(土木工学科 昭和34年卒)の声掛けで、同窓の結束・親睦等を目的とした「田中組水元会」を1999年(平成11年)4月、正式に発足し、現役の同窓社員に退職したOB社員を含め、総勢19名でスタートしました。

会長は田中組常勤者で卒業年次の最も古い者が務めることと定めたことにより、当時の竹中社長が就任し、会長指名の幹事を若干名と会計幹事1名という執行部体制を組み、毎年5月頃に総会と称した懇親会を開催してまいりました。(さすがにコロナ禍であった3年間は開催を見送っておりますが)会では皆でお酒を呑みながら各々の近況を報告し、またその時の会長より退職されたお歴々に対し会社の近況報告を交えながら、有意義なひと時を過ごし結束を深めております。ちなみに発足当初の最古参であった、茂木良二氏(土木工学科 昭和28年卒、副社長歴任)は今年の水元会にも元気に参加、我々現役組を叱咤激励し、更には2次会のスナックまでお付き合いいただきました。勿論、初代会長である竹中先輩も毎年のように参加されております。

今年で発足26年を迎えておりますが、現在の会員数は22名。年齢構成から読み取ると、同窓の入退社は4年に1人のパターン、いずれも会社幹部に登用され、現社長の川島 敦氏(土木工学科 昭和58年卒)が本年6月、田中組8代目社長に就任するなど(勿論水元会の会長も務めております)、我が室工大同窓の活躍には目を見張るものがあります。

私事になりますが、大学卒業後に田中組へ入社するものの、父親の家業を継ぐため6年後に自己都合退社。しかしながらその会社は10年後に倒産、別会社に就職するもまた10年後に倒産、その間、年に1度の田中組水元会には参加しており、当時途方に暮れていた私に「田中組に戻ってこい」と声を掛けてくれたのが同窓先輩の川島社長でありました。

勝手に会社を辞め20年も経つ者への温かいお言葉、妻と共に泣き、再入社を決め、改めて同窓の有難み・感謝・人情を痛感させてくれた田中組水元会。永遠に存続させるべく同窓の採用活動にこれから更に注力していく所存です。

北海道三祐の職場紹介と室工大の関わりについて



北海道三祐株式会社 笹浪 圭吾 (開発工学科 昭和59年卒)

はじめに、室蘭工業大学札幌支部設立70周年まことにおめでとうございます。

私は昭和59年本学開発工学科応用地質学講座を何とか卒業させて頂き、現在は北海道三祐株式会社(札幌市北区)の代表取締役社長を務めております。弊社は「自然環境の保全・創出並びに生活環境の整備に徹する」ことを経営理念とし「土と水と緑の調和を築く」をテーマに人命やインフラを守るべく特殊専門技術の開発・設計・施工注力し、災害に強い国土づくりに向け「専門技術者集団」として事業展開している会社です。また、関連会社として専門資材を開発・販売している「環境資材株式会社」と特殊専門工事の調査設計・工事を担当している「株式会社ランド・ラボ」を経営しており総勢約90名が在籍しております。

本学とは、同窓会では、代議員、札幌支部副支部長、社会連携大学協力員、学科単位では鉱山・開発で組織している「北斗会」の事務局長、同志で「朝日会」、さらに大学とは、MONOづくりみらい共創機構の研究協力員として微力ながら関わりを持たせて頂いております。大好きな室工大、その卒業生として楽しみながら「MITの輪(和)」を少しでも「縦・横・斜」に広めていきたい一心で活動しております。今後とも宜しくお願い致します。

最後に、弊社には(関連会社含む)6名の同窓生が日々主要ポストで活躍中です。以下コメントをいただき紹介をさせていただきます。

笹浪 圭吾 代表取締役社長 (開発工学科 昭和59年卒)

令和7年で社長就任20年。みんなの会社、本物を目指して日々頑張っています。

島津 新一 安全工務部 (開発工学科 昭和49年卒)

入社して9年目になります。特殊技術など新しいことに挑戦できる環境に感謝です。

若い職場の仲間と楽しくやっています。

土居 茂美 土木部 部長 (開発工学科 昭和57年卒)

令和5年4月に入社し、ようやく馴染んできました。今までの経験を活かし、少しでも貢献できるよう努めて参ります。

安井 宏也 株式会社ランド・ラボ 副社長(調査設計担当) (開発工学科 昭和58年卒)

「大地の研究」をテーマに、様々な自然・地質・災害に取り組んでおります。

今後ともよろしくお願い致します。

木村 優仁 土木部 課長 (建築社会基盤系学科 平成25年卒)

土木業界において、専門技術で人々の生活を支えるやりがいのある仕事です。

高橋 健太 株式会社ランド・ラボ 調査設計部 (情報電子工学系学科 平成31年卒)

入社して6年目です。上司は専門性が高い技術を持っており日々勉強になっております。

水元ゴルフ同好会

水元ゴルフ同好会 幹事 茶木 俊博 (土木工学科 昭和54年卒)

水元ゴルフ同好会の活動は来年度(令和7年)には設立45周年を迎えます。長きにわたり諸先輩により継続・維持され、現在も会員数75名を有し、年間3回(6月、8月、10月)のラウンドと納会(11月)を行っています。

■現在の幹事会の体制

会長： 武田準一郎 (土木工学科 昭和51年卒)

幹事： 近藤清隆 (建築工学科 昭和48年卒)、茶木俊博 (土木工学科 昭和54年卒)、
石川浩行 (開発工学科 昭和63年卒)

※令和7年より 佐々木裕之 (材料物性工学科 平成7年卒) が加入します。

顧問： 瀬川修一 (土木工学科 昭和44年卒)、八巻信宏 (工業化学科 昭和44年卒)、
相馬堅治 (第二部電気工学科 昭和44年卒)、花野芳幸 (電気工学科 昭和44年卒)、
武岡英行 (開発工学科 昭和46年卒)

また、室蘭工業大学同窓会札幌支部からは毎年助成金(30,000円)を補助していただき、会の運営に役立てています。

■今年度(令和6年)の活動状況

6月例会： 6月19日(水) 札幌エルムcc 32名参加 優勝：辻 正雄 (土木工学科 昭和39年卒)

8月例会： 8月24日(土) 札幌エルムcc 26名参加 優勝：高宮則夫 (開発工学科 昭和47年卒)

10月例会： 10月2日(水) 札幌エルムcc 33名参加 優勝：舟田洋史 (開発工学科 昭和55年卒)

納会： 11月27日(水) コロポックル 17名参加、皆勤賞9名

成績はハンディキャップ制です(過去3年間の平均で算出、毎年リシャッフルされます)。組合せについてはご要望に応えます。

近年はコロナ禍で取止めになった以外、天候にも恵まれ、順調に開催してきたと思います。特に水元ゴルフ同好会は卒年(昭和36年～平成23年)、出身学科も超えてゴルフを通じて同窓生の親睦、交流をはかる良き場となっています。今後の課題は若い方の参加を増やし、各例会の参加者を増やしていくこと、時代に合ったプレースタイルを採用していくことだと思います。同窓の皆様のご更なるご指導、ご鞭撻を頂きたいと思えます。

今後とも宜しく願いいたします。



囲碁・麻雀同好会

囲碁・麻雀同好会 幹事 武田 寛 (建築工学科 昭和45年卒)

囲碁・麻雀同好会は1980年(昭和55年)に故吹田侍一(機械工学科 昭和40年卒)、三井 尚(電気工学科 昭和41年卒 現名誉顧問)等の発案により設立されました。囲碁・麻雀に多少の心得がある私が幹事を拝命しました。囲碁・麻雀とも会員数は四十余名おりまして、両会とも対局、対戦、懇親会とも盛会に開催されておりました。会場は故花見和夫(電気工学科 昭和23年卒)にご助力いただき、北海道電力の北二条クラブで年1回開催されてきました。参加費は3,500円で、支部からは補助金を頂いております。

◆囲碁同好会

発足当時会員は50名ほどおりました。対局は畳敷きの大広間で背もたれ付の座卓に座って対局しました。対局中、仕入れた缶ビールとつまみを用意しましたが、皆さん品行方正で、囲碁の着手が乱れるのかあまり飲みませんでした。対局は3回行い(スイス方式で点数化)勝敗を決めました。持ち時間は約1時間ですが、これで勝敗がつかない場合は判定で決めます。対局が終わってからの表彰式と懇親会は、隣の大広間で行いました。賞品が当たらなかった方には参加賞がもれなく当たりました。当時、瑞宝舎(2018年に閉店)で0.6~0.7掛けで景品を購入しました。ですから優勝すると五千円の賞品が当たりました。懇親会は豪華な弁当とビール・日本酒。戦績の悪かった方も気持ちよく帰路についたことと思います。

◆麻雀同好会

北二条クラブの遊戯室に全自動が9卓あります。半荘3回行い、1時間で打ち止め、1回ごとに点数を集計し卓を決めていきます。囲碁と真逆で、缶ビールは1人3本飲めるように仕入れましたが、麻雀が終わるころには、空き缶だらけでした。飲むほどにボルテージが上がり、喧しい位賑やかでした。令和6年の第43回麻雀大会は、札幌駅南口近くのハートランド札幌で開催しました。参加者16名でした。懇親会は同ビルの2階「北國屋」で開催しました。

◆今後のこと

2019年12月に中国武漢で発生したコロナが、わずか数ヶ月ほどの間にパンデミックといわれる世界的な流行となりました。麻雀大会はコロナが弱まった2022年10月に開催しましたが、5人がコロナにかかりまして、予定していた囲碁大会は、参加者も6人と少なく急遽開催を中止にしました。また例年会場として使用させていただきました北二条クラブも諸事情のため使用できなくなりました。会員の高齢化も進み(平均75才位)、幹事の私も喜寿となりました。囲碁・麻雀の幹事を勇退しようと思います。もっと早くから若年層を勧誘しておけば良かったのですが、幹事の怠慢で出来ませんでした。次期幹事の方に新生囲碁・麻雀同好会を立ち上げてくれることを願っております。